

第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分会
第 4 回議事録（概要版）

開催日時：2018 年 9 月 10 日（月）18:00～20:00

場所：慶應義塾大学信濃町キャンパス 孝養舎 2 階マルチメディア教室

出席者：片田、小松、岩崎、多久和、浅野、井上、太田、川口、田高、菱沼、正木、南、山本、吉沢、綿貫、西村（議事録）

欠席者：内布、野嶋、寶金（敬称略・順不同）

資料

1. 第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分会 第 3 回議事録（詳細版）
2. 第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分会第 3 回議事録（概要版）
3. 第 24 期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（MP2020）の策定方針（案）について
- 4-1. 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会議事録（詳細版）
- 4-2. 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会議事録（概要版）
5. 平成 30 年度日本看護系学会協議会 社員総会公開シンポジウム報告
6. 高度実践看護班報告
7. 地元創成看護班報告
8. チラシ：食・生活から健康を考える

【議題】

（1）第 2 部会、健康・生活委員会の報告（資料 3）

小松副委員長より、8 月 3, 4 日に開催された夏期会議（福島県）の内容について、下記の通り報告された。

1) マスタープランについて

学術会議が大型研究費の方向性を考えていくマスタープランを 3 年に 1 度策定しており、それに対する策定方針の説明があった。次にマスタープランを出すのは 2020 年であり、各学術分野の多様なコミュニティの中で合意を得て大型研究費の計画を出していく。このプランに対する応募は来年の 1 月、2 月ごろの予定であるため、看護学分会では次回分科会で意見交換をする。

2) 健康・生活委員会の連続公開シンポジウムについて

小松副委員長より、チラシ（資料 8）をもとに、エビデンスに基づいた食がどのように生活や健康に影響を与えているのかについて議論されたことが報告された。

(2) JANA 総会後の公開シンポジウム「高度実践看護師の裁量拡大を考える」(6月27日)の報告

資料5に基づいて、井上委員より報告された。発表者3名の発表資料(PDF)は、JANAのHPに掲載されている。

(3) 各班の活動と今後の予定

1) 高度実践看護職班

資料6をもとに、井上委員から論点整理と検討内容が報告された。

高度実践看護に対しては、教育は進んでいるが、裁量権は変わっていない現状にある。この現状に対して、「提言」を出す方針となった。提言先は、国民および研究者アカデミアへの提言の双方であり、国民が読んでも分かるようにする。政府・国への提言先となるようにする予定である。

2) 地元創成看護班

資料7をもとに、南委員から論点整理と検討内容が報告された。

「地元」の概念整理をしていくとともに、「地元創成」を教育にどのように組み込んでいくかを検討し、具体的な活動を提示していくこととなった。活動例として、大学が設置されている地元と密に連携する活動、特に、災害に対する対策などの意見が多く出された。

活動方針として、提言かシンポジウムなどのアウトプットをできるだけ早く出すこととなった。

(4) 分科会の今後の活動予定

- ・各班が、12月に班会議を開催する方向で、日程調整をする。
- ・分科会は、12月後半に一度開催する予定で、日程調整をする。

(5) その他

小松副委員長より、資料4-1、4-2をもとに、ケアサイエンスの活動について報告があった。ケアサイエンス班の活動と、ケアサイエンス分科会との関係を検討していくことが課題である。

以上